



## カメムシ防除について

男鹿地区営農センター 工藤 亮寿

今年は、斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の発生時期が早く発生量も多いと予想されています。適期防除を徹底し一等米の確保をお願いします。

### ●秋田県における斑点カメムシ類とその生態



#### アカスジカスミカメ

- ・体長4.6～6.0mm
- ・年3～4回発生
- ・7月下旬以降に発生した成虫が加害する
- ・水田内に雑草があれば幼虫も発生し、加害する。



#### アカヒゲホソミドリカスミカメ

- ・体長5.0～6.0mm
- ・年4回発生
- ・8月下旬～9月に水田内で増殖した成虫や幼虫が加害する

- ①イネ科雑草(ヒエ・スズメノカタビラ・スズメノテッポウ等)やホタルイを好みます。
- ②飛翔能力が高く、被害は水田全面に及び割れ籾を好んで加害します。
- ③基本的には稲の出穂期頃から本田内に侵入し加害しますが、水田内に①の雑草がある場合は、雑草の出穂と同時に侵入します。

### ●防除対策

- ①除草の徹底により雑草地における斑点米カメムシ類の密度を低下させる。
  1. 出穂期10日後頃に行う茎葉散布剤の散布直後から7日後までに農道や畦畔の草刈をし、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科雑草の除去に努めます。その後草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
  2. 水田内にイネ科雑草のノビエやホタルイ等が多発すると、アカスジカスミカメの水田への侵入を助長するため水田内の雑草対策を徹底します。
- ②薬剤散布により本田内の斑点米カメムシ類の密度を低下させる。

#### ●1回目薬剤散布: 出穂期10日後頃

農薬名	散布量又は希釈倍数	散布液量	使用期日
スタークル粉剤DL	3kg/10a	—	収穫7日前まで
スタークル液剤10	1,000倍	150L/10a	

#### ●2回目薬剤散布: 出穂期24日後頃(1回目散布から約14日後)

農薬名	散布量又は希釈倍数	散布液量	使用期日
キラップ粉剤DL	3kg/10a	—	収穫14日前まで
キラップフロアブル	2,000倍	150L/10a	

#### 【参考】本田防除と水田周辺の草刈り時期

	6月		7月			8月			9月		
	上～下旬		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本田防除						1回目防除 出穂期10日後頃 ↓			2回目防除 出穂期24日後頃 ↓		
農道 畦畔	6月上旬		稲出穂15～10日前			草刈り7日以内			収穫2週間前		収穫
	← 草刈り →					↔			← 草刈り →		